

# ミニマムなグラフ書き換え言語の コンパイラと仮想機械

<https://github.com/sano-jin/Imn-alpha>

Jin SANO

flat Imntal の **ミニマム** な  
コンパイラと仮想機械を OCaml で実装した

- 全部合わせても **1 KLOC** 以内
- モジュール分割を行い, **拡張性**・**再利用性** も高い

ソースコード : <https://github.com/sano-jin/Imn-alpha>

ドキュメント : <https://sano-jin.github.io/Imn-alpha/>

# 1. 導入方法と実行例

2. 既存のツールとの比較

3. 実装の概要

4. 今後の課題

5. まとめ

# 導入方法：README.md より抜粋

```
$git clone https://github.com/sano-jin/lmn-alpha
```

```
$cd lmn-alpha
```

```
$opam install .
```

```
$dune build
```

```
$/run example/append_dot.lmn -t
```

事前に **opam** が必要

# コンパイラが出力するコード例の抜粋

```
ret = append([a, b], [c]).
```

```
append_cons @@
R = append([H | T], L)
:- R = [H | append(T, L)].
```

```
append_nil @@
R = append([], L)
:- R = L.
```

example/append\_dot.lmn



```
append_cons @@
  alloc [5]
--head:
  PeakAtom      [ 0 'append'_3 ]
  DerefAtom     [ 1 0 0 2 ]
  CheckFunctor  [ 1 '.'_3 ]
--body:
  PushAtom      [ 3 '.'_3 ]
  PushAtom      [ 4 'append'_3 ]
  ReLink        [ 3 0 1 0 ]
  SetLink       [ 3 1 4 2 ]
  ReLink        [ 3 2 0 2 ]
  ReLink        [ 4 0 1 1 ]
  ReLink        [ 4 1 0 1 ]
  SetLink       [ 4 2 3 1 ]
  FreeAtom      [ 1 ]
  FreeAtom      [ 0 ]
```

```
append_nil @@
  alloc [3]
--head:
  PeakAtom      [ 0 'append'_3 ]
  DerefAtom     [ 1 0 0 0 ]
  CheckFunctor  [ 1 '['_1 ]
--body:
  Connect       [ 0 2 0 1 ]
  FreeAtom      [ 1 ]
  FreeAtom      [ 0 ]
```

```
$. /run example/append_dot.lmn -c
```

-c (compile only) オプションは、  
中間命令列を出力する

```
$/run example/append_dot.lmn -t
0: ret(append([a, b], [c]))
----> append_cons
1: ret([a | append([b], [c])])
----> append_cons
2: ret([a, b | append([], [c])])
----> append_nil
3: ret([a, b, c])
Final state:
ret([a, b, c])
```

-t (Trace) オプションは、  
実行途中結果をトレースする

本物の実行結果に  
色をつけ加えている

1. 導入方法と実行例

## 2. 既存のツールとの比較

3. 実装の概要

4. 今後の課題

5. まとめ

# Imntal-compiler・slim との LOC 比較

	使用言語	KLOC
slim <sup>*1</sup>	C++	39.5
Imntal-compiler <sup>*2</sup>	Java	7.6
runtime in java	Java	3.4
ocamntal	OCaml	2.3
<b>Imn-alpha</b>	<b>OCaml</b>	<b>0.9</b>

\*1. src/ 内のレキサ・パーサジェネレータにより生成されたファイルを除いた LOC

\*2. src/compiler/ 内のレキサ・パーサジェネレータにより生成されたファイルを除いた LOC

```
compiler/  
  Compactor.java  
  CompileException.java  
  Grouping.java  
  GuardCompiler.java  
  HeadCompiler.java  
  LHSCompiler.java  
  Module.java  
  Optimizer.java  
  RuleCompiler.java  
  RulesetCompiler.java  
parser/  
structure/  
util/
```

## モジュール化という概念を感じさせない 構成

- 意味解析器・命令列生成器…とかが  
（実装上は別れているけど）ごちゃまぜ

## RuleCompiler.java は **1.5 KLOC**

- モジュール化できていないので  
トップレベルが肥大化

```
a(X, X).
```

```
a(X, Y), a(Y, X) :- .
```



```
spec          [1, 5]
findatom      [1, 0, 'a'_2]
deref         [3, 1, 1, 0]
deref         [2, 1, 0, 1]
func          [2, 'a'_2]
eqatom        [3, 2]
commit        ["_aXYa", 0]
```

循環グラフに健全でなくパターンマッチする  
中間命令を出力してしまう可能性がある

deref 時の neqatom 命令の出し忘れ

```
compiler/  
  compiler.ml  
parser/  
corelang/  
analyzer/  
generator/  
test/
```

## 各フェーズ毎に **モジュール化**

- 各モジュールは **約 50 ~ 170 LOC**
- エントリポイントは **実質一行**
  - 各フェーズの関数を合成しているだけ
- **各モジュール毎にテスト** を用意

## 中間データを取り出して活用可能

- パーシング・略記法の解消などのみでも OK

1. 導入方法と実行例
2. 既存のツールとの比較

### **3. 実装の概要**

4. 今後の課題
5. まとめ

<https://sano-jin.github.io/Imn-alpha/ocamlDoc/Imn>

## 546 LOC

- Imntal-compiler の 1/10 以下

## 100% 純粹（破壊的代入はなし）

- `fold_left_map` で状態の更新をしながら `map` している
- コンビネータの嵐（かなり関数型スタイル）

# コンパイラ構成

---

## parse: 169 LOC

- 字句解析・構文解析を行う

## corelang: 139 LOC

- 糖衣構文の解消・リンクのチェック

## analyzer: 42 LOC

- 意味解析：ポート情報の付加

## generator: 169 LOC

- 中間命令列 を生成する

<https://sano-jin.github.io/Imn-alpha/ocaml/doc/Imn/Generator/Instruction>

# コンパイラが出力するコード例の抜粋

```
append_cons @@
  alloc [5]
--head:
  PeakAtom    [ 0 'append'_3 ]
  DerefAtom   [ 1 0 0 2 ]
  CheckFunctor [ 1 '.'_3 ]
--body:
  PushAtom    [ 3 '.'_3 ]
  PushAtom    [ 4 'append'_3 ]
  ReLink      [ 3 0 1 0 ]
  SetLink     [ 3 1 4 2 ]
  ReLink      [ 3 2 0 2 ]
  ReLink      [ 4 0 1 1 ]
  ReLink      [ 4 1 0 1 ]
  SetLink     [ 4 2 3 1 ]
  FreeAtom    [ 1 ]
  FreeAtom    [ 0 ]
```

```
append_nil @@
  alloc [3]
--head:
  PeakAtom    [ 0 'append'_3 ]
  DerefAtom   [ 1 0 0 0 ]
  CheckFunctor [ 1 '['_1 ]
--body:
  Connect     [ 0 2 0 1 ]
  FreeAtom    [ 1 ]
  FreeAtom    [ 0 ]
```

```
$/run example/append_dot.lmn -c
```

-c (compile only) オプションは、  
中間命令列を出力する

## 280 LOC

- ocamntal の 1/8 以下

## 破壊的代入を行っている

- (仮想マシンは) 手続き型のスタイルで実装した

## vm: 137 LOC

- 1 step 簡約する
- アトムリストを「dump」する機能をもつ

## pretty: 109 LOC

- dump されたアトムリストを pretty print する

# アトムリストの「dump」

---

まずは,

アトムに id を振って, リンクはその id と引数番号の組にした  
**中間データ構造を「dump」する**

→ Pretty print が他のアプリケーションからも使えるように

(ただし現状 dump されたデータをパースする機能はない)

# Pretty print

---

アトムリストを

1. まずファンクタの種類と arity でソート
2. Topological sort を行い,  
できるだけ木の子よりも親をリストの先頭側にする
3. リストを木構造のリスト (= 森) へ変換する
4. 木構造を文字列に整形する (抽象構文の pretty print)
5. 文字列でまたソートする
6. 最後にリストをドットで繋げる

# 解釈実行の例

```
$/run example/append_dot.lmn -t
0: ret(append([a, b], [c]))
----> append_cons
1: ret([a | append([b], [c])])
----> append_cons
2: ret([a, b | append([], [c])])
----> append_nil
3: ret([a, b, c])
Final state:
ret([a, b, c])
```

-t (Trace) オプションは、  
実行途中結果をトレースする

本物の実行結果に  
色をつけ加えている

```
let (<.) f g = fun x -> f (g x)

let compile =
  gen_ic <. sem_graph_of_process <. corelang_of_ast <. parse
```

OCaml には合成関数が標準で用意されていない

→ 自前で定義できる (楽しい)

簡潔で構造的なのは、  
単に関数型言語で実装したから

関数型のスタイルで実装するすると自動的に  
手続き型やオブジェクト指向の 1/5 以下になる

Imn-alpha は関数型での実装にしては、むしろ<sub>若干?</sub>冗長かも  
↔ 簡単な関数型言語の評価器なら 100 行あれば書ける

実行性能は、 . . . 悪い.

slim と 10 倍以上の性能差がある

- そもそもオーダーが悪い
- 恐らくはアトム削除で  
アトムリストを全探索 (filter) しているのが問題

1. 導入方法と実行例
2. 既存のツールとの比較
3. 実装の概要
- 4. 今後の課題**
5. まとめ

# 今後の課題 (本当にやるかどうかは別)

超簡単

1. 対応する構文を増やす (算術式など)
2. slim 対応の中間命令列を出力する
3. --use-swaplink と同等 (以上) の命令を出力する

簡単

4. データアトム, ガードの実装
5. (素朴な) CSLMNtal 対応

難しい  
かも

6. 性能↑
7. 膜対応
8. 非決定実行対応

1. 導入方法と実行例
2. 既存のツールとの比較
3. 実装の概要
4. 今後の課題
- 5. まとめ**

# まとめ

多くの人 (> 1) が関わるプロジェクトなので

## コードの肥大化は仕方がない

- 機能の追加をしてってくれる人は、少ないけどいても
- 機能の削除・全体の設計の見直しを、好んでする人はまずいない

ただし、言語の（基礎理論的な）研究をするなら

**ミニマニズムに心惹かれるのも必然**だよね？

1. <https://github.com/sano-jin/Imn-alpha>
2. <https://github.com/Imntal/Imntal-compiler>
3. <https://github.com/Imntal/slim>